

情報発信

◆映画、マンガ、アニメ、ゲーム等のメディア芸術を活用した情報発信

- ・アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供する「文化庁メディア芸術祭」を実施。
- ・海外のメディア芸術関係フェスティバル等において我が国のメディア芸術を戦略的に発信する展示・上映を実施。
- ・我が国のメディア芸術作品を保存・活用するための「メディア芸術データベース」の充実。
- ・海外映画祭への出品等に必要な渡航費や字幕制作及び映画見本市等への出展等を支援。
- ・「全国ロケーションデータベース」による、国内外に向けた日本の魅力あるロケ地情報の発信。



文化庁メディア芸術祭



海外映画祭への出展

インバウンド振興

◆文化財等に関する外国語解説の推進

- ・「文化財に関する国際発信力強化の方策について」を策定。さらに、文化財に対して多言語で先進的・高次元な言語解説を整備する事業を、観光施策と連携させつつ実施。

地方の魅力の発掘・発信

◆「日本遺産の拡充」

- ・「日本遺産」をこれまでに67件指定。平成27年11月の「日本遺産展(於:フランス・パリ)」をはじめとし、国内外に積極的に発信。

◆文化プログラムの推進

- ・「2020年東京大会に向けた文化を通じた機運醸成に関する関係府省庁等連絡・連携会議」において、政府(内閣官房オリパラ事務局、内閣府知財事務局、文化庁等)が一体となり、「beyond2020プログラム」を推進。



日本遺産(会津若松市ほか)



日本遺産展(於:パリ)の様子

クールジャパン推進に係る文化庁の主な取組

人材育成

◆新進芸術家の人材育成等

- ・「新進芸術家海外研修制度」により、国際的に通用する優れた実演家やアーティストを育成。

◆若手映画作家等の人材育成

- ・若手映画作家に対して、本格的な映画制作のワークショップ等で学んだ技術や知識を実際の短編映画作品の制作を通して実践する場を与え、若手映画作家が世に出る機会を応援。
- ・大学・専門学校等と映画関係団体等との連携のもとに行われる制作現場における学生の實習(インターンシップ)受け入れを支援。

◆メディア芸術の人材育成

- ・アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供する「文化庁メディア芸術祭」を実施。
- ・我が国のメディア芸術の将来を担うクリエイターの水準向上を図るため、若手クリエイター等が行う創作活動を支援。
- ・制作スタッフに若手人材を積極的に起用し、制作段階でオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)を組み込んだ実際のアニメーション制作現場における人材育成を実施。

◆文化交流使の派遣

- ・諸外国における日本文化への理解及び諸外国の芸術家・文化人等の連携協力を目的として、日本の芸術家・文化人を「文化交流使」として派遣。

◆アーティスト・イン・レジデンス事業の支援

- ・国内のアーティスト・イン・レジデンス(国内外の芸術家を招へいし、地域で芸術活動を行うもの)実施団体を支援し、地域における国際文化交流を推進。

日本博2020(仮称)について

1. 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏)において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 第6回の同懇談会(2018年6月22日開催)において、「日本博2020(仮称)」を、オリンピック・パラリンピック東京大会を契機として日本の全国各地で実施することについて、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。

<参考>経済財政運営と改革の基本方針2018について【平成30年6月15日閣議決定】(関係部分抜粋)

第2章 力強い経済成長の実現に向けた重点的な取組

5. 重要課題への取組

(4) 分野別の対応

③ 文化芸術立国の実現

(中略)文化プログラムの全国展開・・・(中略)・・・等を通じて日本文化の魅力や日本の美を国内外に発信する。

2. 関連スケジュール

2018年: 「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

2019年: 「ジャポニズム2019」(於:米国等)を開催

(※ 同年、ラグビーワールドカップ、国際博物館会議(ICOM)京都大会2019開催)

2020年を中心として: 「日本博2020(仮称)」(於:日本)を開催

(※ 同年、2020オリンピック・パラリンピック東京大会開催)

